

1 自己評価及び外部評価結果 (※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101518		
法人名	社会福祉法人 紀三福社会		
事業所名	紀三井寺苑グループホーム	【ユニット名: 1号館】	
所在地	和歌山県和歌山市紀三井寺617-3		
自己評価作成日	平成28年1月7日	評価結果市町村受理日	平成28年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は桜の名所でも有名な紀三井寺の近くに位置する2ユニットのグループホームです。春には花見客で賑わいます。利用者様も花見に出かけたりします。花見以外にも、楽しみを持って、活気のある生活を過ごしていただけるように、毎月、季節感を感じる行事やレクリエーションを実施しております。グループホームでの生活は9人1ユニットとして共同生活をさせていただく中で、これまでの在宅での生活の延長と捉え、家事などのお手伝いや身の回りのことなど出来るところは自己にて行っていたりできるように支援しています。また、生活での不便が出てきたところは職員が支えとなり、利用者様、家族様が安心でき、個々の目標・希望に応じた生活が送れるよう支援させていただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=30">http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=30</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成28年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2000年に開設された1号館のユニットに加えて2012年に2号館のユニットが増設されており、建物の構造もそれぞれ異なっていて、それぞれのユニットが独立した形で運営されている。グループホームの利用者が自分で行けることは自分で行い、その人らしい生活が出来るよう、一人ひとりの気持ちに寄り添ったケアの提供に努めている。年に2回家族会が開かれ、家族間の情報交換や職員との交流も図られている。同敷地内には特別養護老人ホームの施設があり、法人全体で小学生との交流や夏祭りの開催など地域に根差した行事が開催されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、ミーティングを行い、都度目標を決めている。理念に基づき入居者のケアについて話し合い入居者一人一人に目標(個別ケア)を決め実践に取り組んでいる。	ユニットごとに理念を掲げ、地域交流、その人らしい暮らし、笑顔で過ごせる暮らしを大切にして、利用者の思いに沿ったケアが提供できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所主催のふれあい教室、夏祭り等に参加して頂ける様に地域の方にお知らせをしています。参加して頂いた地域の方とはより良い交流を深めるよう努めている。	地域の方がホームを訪れることは殆どないが、地域交流には法人全体で取り組み、敷地内の施設で開催されているふれあい教室では月に一度小学生との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方、家族様に事業所で行っている介護教室の参加を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域包括センターの職員や家族様、民生委員と意見交換しサービスの向上に繋げている。	2か月に1回開催しており、年2回の家族会の日にも開催するようにしたことが家族の参加につながり意見を聞く機会が増えている。民生委員の意見を取り入れ、レクリエーションの種類も増えた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告や事務連絡等行っている。パンフレットを持ち込んだり等もさせて頂いている。	市役所に出向き、事務的な用件での連絡や報告を行い、分からないことがあれば相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日々個々に認識を高めるように月に1回、スタッフ会議で見直している。	スタッフ会議で話し合い、拘束しないケアに取り組んでいる。日中は玄関の鍵をかけず自由を妨げずに安全確保ができるよう見守っている。利用者が外に出れば分かるよう、玄関にセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待防止に努めている。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名: I号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用されている方はいないが、家族様には必要に応じて制度がある事を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず契約前には説明を行い、契約時も再度説明をし、家族様の要望を伺っている。また、事業所のケアに関する考えや取り組みについても話し、その際も意見や要望を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会等で意見や要望を引き出すように努め、	年に2回の家族会や2カ月に1回の運営推進会議の中で家族の意見が出されている。往診の支払いを施設に持参してもらう際など、直接家族の声を聞くことができる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員の意見を聞き、個別にも要望や意見を聞いている。	ミーティングやスタッフ会議などで出た意見を運営に反映できるよう、管理者は常に職員の声を聞く姿勢を持っている。毎月順番に2名の担当者が食事のメニューや行事の企画を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で実績の評価を行い、自由記述にて条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、Drや看護婦を交え専門的な医療に関する知識を得るために勉強会を行っている。又、法人の勉強会やスタッフ会議での勉強会を行い、職員が参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を深め、質の向上に取り組める様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族様の協力を得て、本人の生活状況を把握できるように年代別背景や好きな物・嫌いな物シートに記入して頂き、本人が入居後不安なく過ごせるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の抱えている不安なこと・要望や困っている事はないか聴き、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様の思いや考えを確認し、状況に応じた支援を行っている。場合によっては他のサービスの利用も含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできる事はして頂き、利用者・職員が支え合いながら24時間共同生活を営んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など本人の様子を伝え、本人に何か変化がある際は都度連絡を行っている。家族様の意向や協力を得て本人を支える支援に取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外にも知人の方がたまに面会に来て下さる。馴染みの人や場所との関係性が途切れないように、家族様にも協力して頂いている。	スタッフの笑顔、明るい声かけで、家族や知人が訪問しやすい雰囲気となっている。職員はユニット専従で、職員と利用者の馴染みの関係も大切にしている。	実際に馴染みの人に会ったり、馴染みの場所へ行くことはできなくても、会話の中で思い出し、言葉にできる支援も期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の個性が合い、無理の無い関係性をもてる様に支援している。また、孤立される方がないように職員がパイプとなり上手く関わりあえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、面会に行き様子を伺うなど、アフターケアに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人に問いかけたり、上手く伝えられない方には、その時々的心情や言動から察し読み取り把握に努めている。その際の利用者の言動は生活シートに記入している。	みんなと過ごす日常生活や、スタッフと1対1で話しができる入浴時など、あらゆる場面で言葉や様子から、一人ひとりの思いを知り、ケアに反映できるよう生活シートに残して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方については、少しでも多くの情報収集出来るように家族様には予めシートに記入して頂いたり聞き取りなども行っている。本人からも情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人に24Hシートを作成し、生活のリズムや状態の変化に気づけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族様の意向を取り入れ、その人らしさを大切にするには何が必要か職員間で検討し、介護計画を作成している。	月に一度のスタッフ会議で、生活シートを参考にして利用者3名ずつのケアについて話し合っている。利用者や家族の意見を踏まえてスタッフ会議での検討内容を反映させた介護計画を作成している。	一人ひとりのできること、得意なこと、したいことを取り入れ、利用者がより主体的に生活できる計画となることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有し認識を深めるために、利用者それぞれについて生活の様子や心身の状況、ケアの実践と結果などを記録し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療の連携体制を活かし、急変時や特変事でも訪問診療や訪問看護を利用しながら、できる限り本人や家族様の望む生活を継続していけるように支援している。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名: I号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防、地域のボランティアなどと協力しながら、安全で豊かな暮らしが送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族様の希望によりかかりつけ病院を選んで頂いている。かかりつけ病院とは連絡を取り合い関係作りを行い、適切な医療を受けられるように支援している。	殆どの利用者が、協力医療機関の医師をかかりつけ医としており、月に2回の往診を受けている。歯科衛生士も定期的に訪問しており、必要に応じて歯科医が往診し治療している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師や訪問看護師に、いつでも何かあれば直ぐに相談しながら、日々の健康管理や状態の変化に応じた対応を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、出来るだけ安心して過ごせ、出来るだけ早期に退院できるように、病院関係者と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族様・主治医・看護師・スタッフと話し合いを行っている。グループで出来る医療的処置の範囲を伝え相談し、重度化した場合等系列の特別養護老人ホームへの支援も行っている。	重度化の場合は、家族と相談の上、設備面の充実した特別養護老人ホーム等に移れるよう支援している。事業所での看取りは行わない方針で、常時医療的な処置が必要になったときは、対処できる医療機関への入院等を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員などの協力を得て、他部署合同で定期的に応急手当・救急法の訓練を行っています。グループホーム内でも勉強会をして実践に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、避難訓練や救急法の講習を設け、職員には災害時の役割分担をきちんと決めている。	法人全体での避難訓練は行われているが、事業所として、利用者を交えた訓練の実施はまだできていない。	実際に行ってみて気付くこともあり、災害時の安全確保に向けて、実際に近い訓練が実施できることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性を理解し、一人一人の人格を尊重したプライバシーを損ねない声かけや対応に努めている。	利用者の気持ちに配慮して声掛けしている。安全面を考えてI号館ではトイレのドアの大部分を鍵がかからないように、またII号館では居室ドアに中が窺がえる小さな透明ガラスをはめ込むなどしている。	安全管理の方法によっては、プライバシーの確保ができず、利用者に不安感や抑圧感を与える場合もあり、それを踏まえた支援が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や、その他の事に関しても普段のコミュニケーションをとる際に意向を聞いて自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者、一人一人のペースを大切に、希望や要望に添えるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回美容師の訪問があり、希望があれば利用者の好みの髪型にカットして頂いている。起床時や入浴後等、整髪や更衣を手伝い、その人らしくおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きながらメニューを考え、準備・食事・片付けなども一緒に行っている。	スーパーへの食材の買い物に利用者が同行することもある。調理や準備、片づけも殆ど職員が行うが、利用者が手伝うこともある。職員と一緒に同じ食事を楽しんでいる。	さらに、食の話題で皆のコミュニケーションを円滑に、また、テーブル拭きや配膳など、利用者がより主体的に動き、生活リハビリとなる取り組みを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスには注意をしている。利用者一人一人の食事量・水分量を把握しており、摂取量が少ない際は状況に応じて工夫をし摂取して頂けるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけ、ポリデント洗浄のケアを行っている。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名: I 号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握して、利用者の自立に向けた支援を行っている。	できるだけトイレで排泄できるよう支援している。夜間の排泄は一人ひとりの状態や習慣に合わせて、希望に沿った支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入し、便秘の状態を把握している。また、便秘予防のために水分強化や軽運動や散歩等を取り入れ支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の意向やタイミングに応じた支援を行っている。	利用者はそれぞれ週に2回程度入浴できるよう支援している。嫌がる人にもタイミングをみて声掛けし入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転することがなく、夜間安心して眠れるように支援している。また、不眠傾向にある際は状況に応じて主治医と家族様に相談し、不眠時薬を服用して頂き見守りを強化している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬内容をつけ、薬の目的や副作用を提示して職員全員が把握するようにしている。服薬チェックリストやWチェックも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活で張り合いや楽しみをもって頂くために日常業務の粗洗い物や洗濯たたみ等手伝える方には協力して頂き、希望者には買い物・ドライブ・散歩・カラオケ等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩、買い物等少しでも外出出来るように支援している。	紀三井寺遊歩道での散歩、買い物、喫茶店など、月に一度は外出できるよう支援している。外出できない時も、表で金魚に餌やりをしたり、プランターの花植えをしたりすることで、外気に触れることができるようにしている。	

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名: I号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たれている方が、買い物等要望があれば一緒に行けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話をして頂けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に居心地良く過ごして頂く為に、毎日清掃を行い、空調や採光にも配慮している。また、季節感を味わって頂けるように季節に応じた飾りつけや季節の花等を生けたりもしている。	I号館とII号館は建物が別で構造も違う。掃除が行き届き、リビングは広く採光や温度を快適に過ごせるよう調節している。II号館は居室部分とリビングが離れており、利用者は日中殆どの時間をリビングでカラオケを楽しむなどして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々のお気分の変化等に合わせ、思い思いに過ごせる空間作りを随時行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、最も安心して居心地の良い場所となれる様に家族様の協力を得て利用者の好きな物や馴染みの物を置くように工夫している。	居室内はそれぞれの馴染みの物や気に入った物を配置して、居心地良く整えられている。I号館では日中も各自の居室で過ごす利用者が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の出来る事・わかる事を理解し、それを活かして自立または維持出来るように支援している。		